夕刊
常磐新聞
九月十四日
發行兼編輯印刷人 伊藤隆次
福島縣小名濱町古港一
發行所 常磐新聞社
日刊但日曜祭日翌日休刊
一部二錢 一ケ月三十錢
廣告料 一行五十錢

クスリ 資生堂 小名濱町 電一四七

豐間村長問題も氣合が掛る

本月本末には決定の模樣

山野邊助役の理者事振り

豐間村長問題は前鈴木村長死亡後既に三月になつても未だ氣が熟せず山野邊助役が村長代理で押通してゐるが、全村の空氣は既に一致し山野邊助役の昇格は動かぬ處だが目下防空訓練中でもあり本月二十日頃に村會議協議會を開き村長を內定し月末に村會を開き村長選擧會を行ふ模樣であるが山野邊助役の理事者振りも、ガッチリしたもので村會には必らず辯當持參を言渡し村關係宴會は非常時の解消する迄絶對に遠慮する事を打合せたりして硬骨な非常時村長の貫錄を見せてゐる

水試場長後任決る

岩瀨水產課長

實業界に轉身した縣水產試驗場長の後任は十三日付水產課長岩瀨森次氏に決定

農村工業に技技術者の指導

小名濱水產加工へは

農林技師中村義夫氏

農村工業協議會の申合せで農村工場の實地に工場の事業につき調査旁々技術上の指導研究を目的として農林省より技師を派遣する事になつたが小名濱水產加工場には來る九月十九日農林技師中村義夫氏が來場指導する事になつた

玉川の茶目子

お座敷から逃走

平市鍛冶町藝妓置屋玉川こと國府田直良方抱藝妓上遠野村大字上向茶目子こと雲藤たが子(二一)は去る十日午後お座敷先きから前借一千三百圓を踏み倒して行方を晦ましたが同女の馴染市內古鍛冶町元某會社現場員(三五)が最近渡滿したのでその後を追つたものらしく平署で手配中

防空訓練と應召美談

職分を果し恣々歸宅

從軍志願二回の小野君

非常時下應召美談も澤山あるが、小名濱町古港小野善三郎君(二四)は目下防空訓練に參加し監視哨の重大任務に就て居つたが今次の應召は君の希望して已まぬ一員として召集令が來た、時恰度役場の監視哨にありこれを聞いた小野君は職場を去ろうともせず自分に與へられた任務を濟して恣々歸宅した、應召となれば一時は興奮して職場等を捨てるのが常なのに小野君の態度には役場關係者は大きな感銘を與へられたとの事である君は曩に二回も出征を志願して今日に至つたもので茲に初めて目的が貫徹したものである

女中を襲つた畔田起訴

錢湯歸りの女中を襲ひ暴行を加へた江名町大字江名字南町漁夫畔田芳雄(二八)に係る「暴行致傷」事件は過般來平支部の豫審に附され關口判事の取調べを受けてゐたが今十四日有罪と決定起訴された、共判は近く中谷裁判長係りで開廷

中農講習生

小名濱見學

中堅農民講習生一行は十七日小名濱町日本水素工業、水產試驗場、測候所、魚市場を見學

× × ×

殖える傳染病に御用心

豫防に各自の御注意

現在「腸チフス」六名收容

小名濱町の腸チフスは初秋に入り滅切殖えてきて退院より入院が增加の狀態である、〇〇自動車部よりは一時に二名も出す有樣で益々猖ケツの徵候がある町役場でも目下防空訓練中であり終了後は大々的の豫防に乘出す都合にあるが、各自も他を賴らず豫防注射豫防藥等に銘々の身の保護に當るべきであり殊に重大な時局柄軍役關係者は一層注意されたいと町當局は語つてゐる

姝を探す薄幸の少年

◇……平署へ涙の搜索願

父も母もなく兄弟姉妹六人の居所も分らず肝腎な本籍も判然しないといふ薄幸な少年から妹が久の濱町に居るといふ事を風の便りに聞き十四日平署に涙の搜査方を願ひ出た、少年は湯本町入山炭礦東區居住坑夫嵯峨清(一八)で父の顏は全く知らず母は九歲の時死亡したので十一歲の折名古屋市に奉公に出たまゝ兄弟六人も離れ〳〵になつてゐたが最近今年十一才になる妹が百五十圓借用證に縛られてゐると聞き平署に訴へ出たものである

搜査願一束

（其の一）宮城縣名取郡中田村今野今朝松さん次女たけよ(三九)は一昨年二月反物行商の半島生れ石山一郎の內妻となり平市七軒町に居住し郡下の炭礦に働いてゐたか昨年春頃から音信が絶え最近重態におちいつたろう病父今朝松が是非一目會ひたいと云つてゐるから弟飛島善八さんから

× ×

（其の二）青森市大字濱町飲食店カキ萬こと伊藤孝三郎(四二)は七才の子供までありながら女中の山本よしの(二九)と昨年六月頃から內緣關係を結び此程五百圓を持つて駈落し平市附近に潛伏してゐるらしいとよしの夫萩村賴正さんから

× ×

（其の三）栃木縣塩谷郡藤原町大字小佐越三三沼尾春吉(三五)は去る昭和十年十一月中無斷家出、最近新戚の湯本町八仙沼尾伊三郎さん方にゐるらしいと家族から

石城梨の中央出荷

出廻り最盛期は二十日頃

郡下の年產百六十五萬貫

昨年、一昨年と暴風風雨に大きな被害を蒙つた名產石城梨は今年は過般の時化にも格別の被害なく昨今街頭に清新な味覺をそそつてをり赤井果樹組合では昨十三日二萬貫の中央初出荷をなし大野村藥王寺部落で今十四日出荷した、値段は大体昨年程度らしく郡農會內田書記が上京問屋筋と交渉をつゝけてゐる、なほ郡下の年產は百五十四萬貫を突破しうち六十貫を出荷する出廻り最盛期は來る二十日頃

賞與金を獻金

昭和人絹錦工場羽田善三郎君他十三名は皆勤賞として會社から給與された賞與金を割き慰問費として金六圓五十錢を獻納

× ×

天氣豫報

今晩　北の風曇り雨模樣あり

明日　北西の風曇り後晴れ

開業御披露
江戸ッ子
おでん
もつ燒
一平
小名濱。紅椿前

悲の聲

作山町長ハナ頭をうごめかす

江名町長作山氏の自慢の種は後から〳〵と盡きるを知らぬ去る八月三十日の町會は特別稅戶數割賦課決定案を中心として議案が第一號より第八號迄提出して午前十時に開會を宣した、驚くべき大部体裁は良いが、それよ愚者は向見ずに偉がつて、りか見たくないから斷るのペチャンコ、になり賢者は方が男性的だね、新聞を斷つて報復のつもりなら、これよりは、どうだね、モーちらは御膳で御茶を沸す、ニングでも着出したら

老も若きも再認識の秋

既に大陸に勇飛する出征軍人の身の上、近くは應召される我等の代表の武者振を見て老人級少年級應召洩れの若者は、茲に再認識の段階に衝當つた、中堅青年壯年層が代表となつて遠征する、それには各々の持場を捨てなければならぬ、その欠員を補充するには老年少年の双肩に荷せられた重大なる責務である、銃後の産業は衰退しては、いけない、銃後は老若が脊負ふて應召軍人に後顧の憂を持たしてはいけない、青年層は一線に働いて呉れ銃後は吾等が引受けた、の意氣が老人層に望ましき限りである、現在銃後に一番適切な奉仕を捧げてゐるのは國防婦人會である、それに續へて青年團である、老年層の奉仕團体は何一つないばかりか、この非常時に何をして居るのか、死金の勘定や孫の御守りに寧日ないなどは餘りに非常時を知らぬ沒ろう漢である、ろう人はイン歷帳への記帳に大にこの際働いて貰ひたい、應召洩れの壯年者も出征した氣持で緊張した銃後奉仕に範を垂れて欲しい、少年層尙然り國を擧げて非常時突破に猛進すべき時である

與太は亂れ飛ぶ

時代の生んだ、合理化せる……

セメント瓦製造販賣

高木惣治商店

小名濱町定西
電話二一八番

◎御報せ次第參上御見積申可候

印刷の御用命は！

常磐印刷所へ

電話（呼）一三九番

耳鼻咽喉科專門

レントゲン科

高柳醫院

平市驛前（電話三三六）

醫學博士 **高柳博明**

一歩二歩と健實なる歩みを續ける庶民金融界の王座

磐城無盡を御活用下さい

小名濱町出張所

小川爲八郎

鈴木寫眞舘へ

小名濱町中島郵便局隣

何時も主人が責任撮影を致します

永久に記念する
婚禮の御寫眞は
特に入念藝術味
豐富に撮影

爽快なる氣分で……

楚々たるサービスで、

是非一杯……

カフェー**末廣**へ

小名濱下橫町

調味料として美味滋養に富む

花鰹節製造販賣元

高木嘉一郎商店

小名濱町定西　電話二〇八番

▼原料裏干賣買仲介▲

性病科
産科
婦人科

午前宅診
午後往診
入院隨意

專門

平市田町

井坂醫院

（電話五五九）

三井生命保險株式會社
大正火災保險株式會社　代理店

魚市場
代行機關

磐城水產工業株式會社

小名濱町築港內
電話一四四番

內科外科
皮膚泌尿器科

院長 醫學士 **前澤正**

江名町折戶字岸浦
電話一三三

前澤醫院

口腔外科　齒科一般

森合齒科

院長 森合芳男

電話植田七十一番